

C.C.Z.とは

「海辺は、人々の安らぎと憩いの広場」
 「海岸を活用した、ふれあいのまちづくり」
 「C.C.Z. (Coastal Community Zone)」

四方を海に囲まれた日本。そこに暮らす私達は、漁業などの生産活動の場として、また保養やレジャーなどの憩いの場として、昔から海辺と深い関わりをもってきました。最近では、海辺を利用しようというウォーターフロント計画や海洋性レクリエーションへの関心の高まりからますます海と人との関係が密接なものになっています。コースタル・コミュニティ・ゾーン整備計画もこのような時代のニーズのもとに生まれました。テーマは“ふれあいの海辺”。海岸の特長を生かしながら、若者からシルバー世代までの幅広い層の人々が、気軽に集い憩える場に整備しようとするものです。

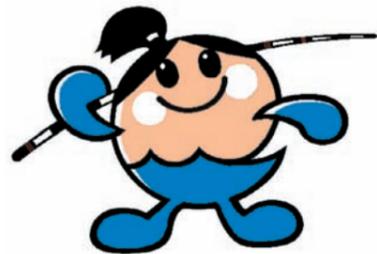
浅茂川海岸では、海岸環境整備事業により、突堤や人工リーフの施設整備によって砂浜の創造を図り、公園事業により、海岸を埋立て都市公園の整備を行っています。



浅茂川海岸のシンボルマーク

遠浅の海岸を藍、砂浜と自然のふれあいを銀に託し、ロゴタイプは松林をイメージさせて配置しています。

また、地場産業の丹後ちりめんを渚ラインに図案化し、同時に微小貝を表すことで、自然が永久に保たれるようにという願いを込めています。

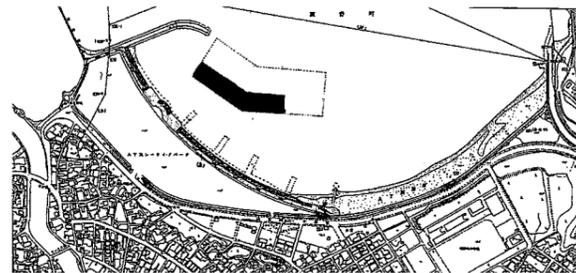


海づくり大会マスコット
 「浦島エコー」



第20回全国豊かな海づくり大会の会場になりました。
 (平成12年10月1日)

整備済内容	
緩傾斜護岸	L=630m
突堤 (1基)	L=255m
人工リーフ (1基)	L=211m
砂止小突堤 (5基)	L=250m



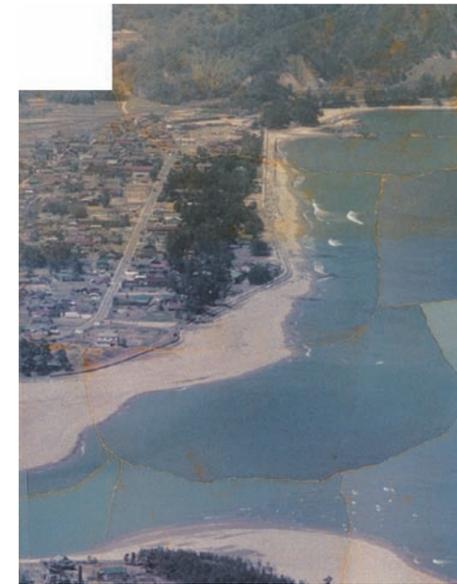
由良海岸侵食対策事業、局部改良事業

施工場所：宮津市

事業年度：昭和48年度～平成元年度（侵食）
 平成2年度～平成12年度（局改）

「山椒太夫」の舞台となった由良海岸は、府内随一のにぎわいを見せる海水浴場です。昭和30年頃までは幅50～100mの広い砂浜がありましたが、昭和37年、昭和47年の激しい風浪により、わずか10m程度まで侵食されました。

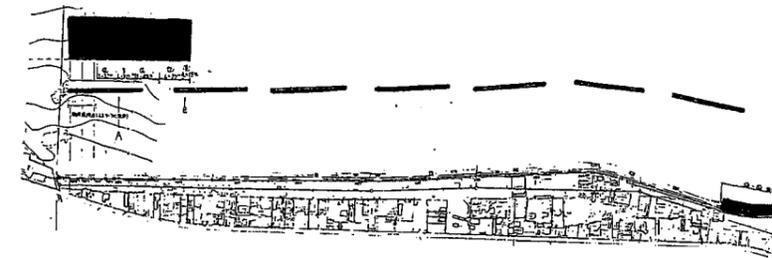
現在では、護岸、離岸堤、人工リーフの整備により砂浜が維持されています。



昭和57年の海岸線



平成12年撮影



整備済内容	
離岸堤 (7基)	L=860m
人工リーフ (1基)	L=200m
緩傾斜護岸	L=165m